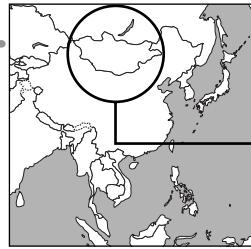


# ユニセフ 子ども物語

## 地球に生きる子どものくらし

Mongolia

モンゴル



地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。



## 待ち遠しい幼稚園の日



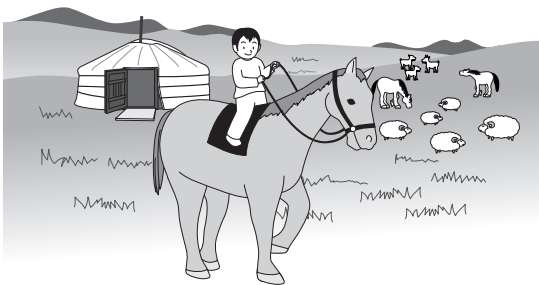
### 大草原でくらす遊牧民の生活

ボルドは5歳。モンゴルの首都ウランバートルからずっと東の大草原にくらす元気な男の子です。お父さん、お母さん、お姉さんとふたごの妹の6人家族です。

お父さんは約50頭の馬や羊、山羊を遊牧しているので、家族は牧草がある場所に移動する生活をしています。ボルドは上手に馬に乗れるようになったので、毎日お父さんの手伝いをしています。

草原を移動する生活では、ほかの家はとてはなれているので、いつも家族だけで生活しています。親せきの家族が時々遊びに来た時にボルドは同じ年くらいの子と話したり遊んだりしますが、そのほかの子と一緒遊ぶことはほとんどありません。

遊牧の生活は家族みんなで力を合わせなければなりません。移動する時はもちろん毎日の馬や羊たちの世話、水くみ、チーズづくりなど、することはたくさんあります。冬は寒さがきびしいので生活はとても大変です。

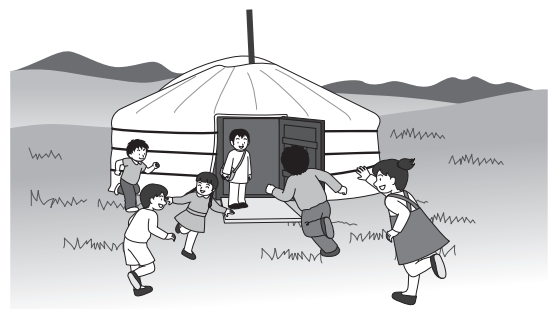


### ゲルの幼稚園

ボルドが住んでいる家は、「ゲル」といって、木とフェルトで組み立てる、しっかりした作りの白い円形のテントのような家です。組み立てができるので移動にとっても便利です。

去年の春、ボルドの家族に大きなできごとがおこりました。草原で移動生活を送る子どもたちのために週1回、幼稚園が開かれることになり、ボルドの家族がくらす「ゲル」が「幼稚園」として使われることに決まったのです。幼稚園が始まる日、草原に住む小学校に入る前の子どもたちが18人、オートバイや馬でお父さんやお母さんと一緒にやってきました。ボルドはこんなに大勢の子と会うのは初めてでとても緊張しました。幼稚園にはボルドと双子の妹

のサラとナラも参加します。子どもたちはみんなボルドと同じように初めはとまどっていましたが、だんだん慣れて仲よくできるようになりました。



### 幼稚園は楽しい!

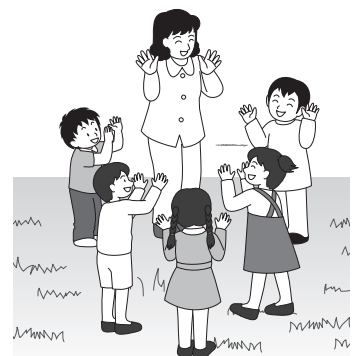
週1回、遠い町から車でやってくる先生は楽しいことをたくさん教えてくれます。

ボルドにとって幼稚園は何もかも初めて体験することばかり。ぬりえの本にクレヨンで色ぬりをするのはとても楽しくて、みんな夢中です。先生は絵本を読んでくれたり、折り紙を教えてくださいました。「元気にあいさつをしましょう」「けんかをしないで仲よくしましょう」と、先生はいつも言っています。「つめがのびたら切りましょう」「トイレのあとや食事の前には手を洗いましょう」—元気に生活するための大事なことも教えてもらいます。

気候がよい時には幼稚園は青空教室になります。草原に輪になってすわり勉強をしたり、歌を歌ったりします。先生と一緒に電車ごっこをしたりモンゴルすもうをしたりします。

大勢の子と一緒に過ごす幼稚園生活を通じて、ボルドは積極的に友だちと接することができるようになりました。子どもたちはさまざまな体験をしながら、心も身体も脳もどんどん成長していくのです。

ボルドは友だちに会える幼稚園の日が待ち遠しくなりません。



<文・構成: (財) 日本ユニセフ協会>

モンゴルは北はロシア、南は中国にはさまれた内陸国です。日本の4倍の国土に人口は261万人（日本の約50分の1）。人口密度が1.67人という低さです（日本は343人。2005年。出典：総務省）。昨年、チンギス・ハーンがモンゴルを統一したとされる1206年から800年の節目であることから国をあげてのさまざまな祝賀行事が行われました。

首都ウランバートル近郊のゲル地域。  
元遊牧民が移り住んでいる  
©日本ユニセフ協会

## 全国の学校と協力して支援するモンゴル指定事業 「移動生活の子どもたちを守ろう」

### モンゴルの困難な現実

1990年の旧ソ連邦の崩壊に伴ってモンゴルは大きく依存していた旧ソ連邦から経済支援が打ち切られました。市場経済への移行によって国営企業民営化に伴う人員削減、失業者の増加、物資不足による物価の上昇、財政難による福祉・教育・保健医療制度の切り捨てなどで、国内の生活基盤は混乱し、治安の悪化など非常に困難な事態となりました。その後、貧富の格差は年々増大し、貧困層は約40%にのぼっています。

遊牧民が飼っている馬、羊、山羊などの家畜も私有化されたため、それまで国が組織的に行っていた越冬用の乾草準備や健康管理などをすべて自分たちで行わなくてはならず、混乱をおこし、大きな負担となりました。また、1999年～2003年に発生した雪害（ゾド）やかんばつによってとても多くの家畜が失われ、被害のために遊牧を続けられなくなった遊牧民は仕事を求めて都市近郊に移り住み、きびしい生活を送っています。

#### モンゴルの子どもたちの状況

（より詳しい統計は『世界子供白書2007』をご覧ください）

項目	モンゴル	日本
5歳未満児死亡率（1,000人あたり、2005年）	〔人〕 49	4
改善された水源を利用する人の割合（全国、2004年）	〔％〕 62	100
*モンゴルでは、都市と地方で統計の数字が異なります。		
適切な衛生施設を利用する人の割合（全国、2004年）	〔％〕 59	100
*モンゴルでは、都市と地方で統計の数字が異なります。		
平均余命（2005年）	〔歳〕 65	82
国民総所得（2005年）	〔米ドル〕 690	38,980

出展：世界子供白書 2007



遊牧民のゲル。  
移動式幼稚園としても使われる  
©日本ユニセフ協会



気候がよい季節、幼稚園は草原での  
青空教室になる  
©日本ユニセフ協会

### 遊牧民の子どもたちの移動式幼稚園

幼稚園教育が打ち切られた1990年以降、小学校の中途退学率が高くなりました。政府は小学校での学習や生活に慣れるためには就学前の教育が大切だとして、幼稚園教育に力を入れています。

「移動式幼稚園」は、草原に点在する遊牧民のゲルに幼稚園の先生が出向いていく新しい方法の幼稚園です。週に1回の割合で遊牧民のゲルを借り、その周辺の子どもたちを対象に幼稚園教育を行います。次回の幼稚園実施日までにやっておく課題は保護者に伝え子どもの学習を見てもらいます。この方法で遊牧民の子どもたちが幼稚園に参加できるようになりました。現在、「移動式幼稚園」「夏季幼稚園（夏に約2週間宿泊しながら補完的に行われる幼稚園）」の実施や保護者の意識が変わったこと

で、幼稚園事業を行っているバガヌール地域での通園率は39%から65%に急増しています。幼稚園教育の充実は、政府とユニセフが進めている重要な事業です。



ユニセフが支援して作成された教科書。  
健康的な生活のための知識についても書かれている  
©日本ユニセフ協会

#### ●遊牧民のトイレ

移動生活用のゲルにはトイレがないので、幼稚園の先生が衛生的なトイレの作り方も指導します。ゲルから離れたところに穴を掘り、穴の上のまわりを小麦粉が入っていた大きな布袋で三面囲みます。横にシャベルを置いておき、用を足したあと掘り上げた土をかぶせるのです。初めてのトイレにみんな少しずつ慣れて使っています。



©日本ユニセフ協会

#### ●親のための教室

幼稚園事業は、子どもの養育についての親の意識づけが重要なので、3カ月に1度、親のための教室が開かれています。最初は母親だけでしたが、今は父親、祖父母も参加しています。子どもの教育方法についてテーマを変えて話し合われます。



©日本ユニセフ協会

## モンゴル指定募金にご協力を!

遊牧民の子どもたちの幼稚園事業は、日本全国の学校からご協力いただく募金によって大きく支えられています。学習や募金活動資料として「資料キット」の貸し出しをしています。遊牧民の子どもたちの生活やユニセフの活動をわかりやすく紹介していますので、ぜひご活用ください。

利用を希望される際は、学校事業部へお問い合わせください。

TEL:03-5789-2014

#### ●指定募金資料キット

1. 事業の背景・解説（含むCD-ROM）
2. 揭示用写真資料 10枚
3. DVD「移動生活の子どもたちを守ろう」
4. 発育観察記録用紙、幼稚園の教科書<sup>（※）</sup>
5. 子どもたちの作品

（※）右上の「教科書」の写真。後列右側の実物

#### モンゴル指定募金の送付方法

口座番号 00190-5-31000

加入者名 日本ユニセフ協会

通信欄に「モンゴル」と記入してください。

※ 郵便局に備え付けの「青い払込用紙」を利用し窓口でお振込みされますと、手数料は免除になります。

2006年7月に全国から参加された教職員の方がたによるモンゴル・スタディツアーの報告をホームページでご紹介しています。ご覧ください。  
[http://www.unicef.or.jp/children/study\\_tour/index.html](http://www.unicef.or.jp/children/study_tour/index.html)